

【早期刈り取りは自ら翌春の収量を低下させることとなります。】

茎葉の刈り取りは茎の青みが完全に抜けてから

斑点病や茎枯れ病等の病害や台風被害により、早く刈り取りしたくなるかもしれませんが、翌年の収量向上に向けて、茎の養分がしっかり根に送られ青みが抜けるまで待ちましょう。

1. 翌年の増収対策

①完全な養分転流

茎葉の養分が根に送られてから刈り取りをする。(目安:11月下旬~)

黄化が進むにつれ貯蔵根の糖度が高くなり、翌年の収量は多くなりますので養分転流期間をしっかりと確保しましょう。

②亜リン酸資材「PK ゴー」の葉面散布または土壌灌水

10月の定期防除(バルト水和剤1000倍)が未実施の場合は併せてPK ゴー3,000倍液を加用する。葉が黄化し落葉している場合は、PK ゴーを10a当り1Kgを水300~400ℓに希釈して土壌灌水するとより養分転流の促進と増収効果が期待できます。

特に10月の処理が効果的です。

2. 茎葉の刈り取り

☆茎に青みが残っているものはまだ茎に養分があると考えられるので、青みが完全に抜けてから刈り取る。

☆地際の茎で越冬する病害虫が多いため、できるだけ地際いっぱい刈り取る。

☆刈り取った茎葉は、圃場外へ持ち出し園地をきれいにする。

◎茎葉を焼却する場合の確認事項

①場所・・・煙が発生します。住宅や高速道路、線路から離れた田や畑で風のない時に焼却する。

②乾き具合・・・刈り取り直後は水分を多く含んだ状態のため煙が多く発生します。

茎葉を十分乾燥してから焼却してください。

③1回の焼却量・・・予期せぬ事故にならないよう、複数回や複数箇所に分けて焼却しましょう。

④風・時間帯・・・風に注意をし、暗くなる夕方は避けましょう。

※火種として廃タイヤ・ビニール等は絶対に入れないこと。

3. 茎枯病対策

茎枯病により早く枯れあがった園地では、翌年の収量低下が特に心配されます。茎枯病の病原菌密度を下げ、次年度の発生を防ぐためにも次の管理を徹底してください。

①既に完全に黄化している圃場も、11月上中旬頃を目安に茎葉の刈り取りを実施してください。

※刈取後気温が高いと、萌芽による蓄積養分減少の恐れがあります。早すぎる刈り取りはしない。

②茎葉残さは、翌年の伝染源となる病原菌が多いため、必ず圃場外へ持ち出してください。

③茎葉刈取り後バーナーによる地表面焼却は菌密度を抑え、茎枯病等に予防効果があります。

JAではプロパンガスバーナーの貸し出しを致します。

また、バーナーによる焼却試験の結果、茎葉刈取り後と翌春萌芽前の2回処理が最も効果があります。

多発したほ場は、翌春萌芽前にも実施してください。

裏面に続く

※バーナー利用料は半日 1,100 円、1 日 2,200 円です。

バーナーの申し込みは園芸課担当へ(23-3933)

燃料（ガスボンベ）は自己負担です。

8Kg ガスボンベはジェイエアップル燃料課（22-4300）で購入が必要です。

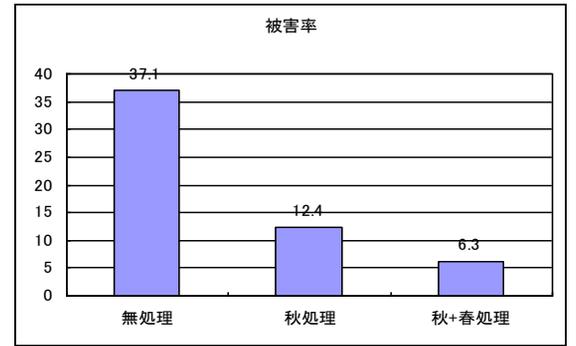
※2021 年 3 月 1 日法改正(ボンベの購入後の管理更新等詳細は燃料課にお問い合わせ願います)

ボンベの貸出ができなくなりました。ボンベ購入となります。

金額 12,000 円(税込)ボンベ代+5,000 円(税込)ガス燃料代=17,000 円(税込)

平日(9 時~16 時)のみで、土日祝日は販売+充填していません)

作業時間は 10a 当たり 3 時間程度になります。



* ガスバーナー焼却による防除効果

4. 堆肥の施用

春どりの打ち切り時に施用していない場合や施用量が少ない圃場は、茎葉刈り取り後に施用してください。

また、来春定植予定の圃場についても最低 10 t（ｺｰﾝｺﾌﾞ入牛堆肥等）施用してください。

なお、堆肥の種類には次のようなものがありますので、JA窓口へご注文ください。

種類	規格	価格	説明
ｺｰﾝｺﾌﾞ入牛堆肥	1 台 2 t	7,700 円	バラ堆肥、堆肥 2 台から堆肥散布作業を請け負います（年内供給は 11 月 20 日頃まで。早めの注文をお願いします）
エアｰポイント	40ℓ (18kg)	520 円	ｺｰﾝｺﾌﾞ使用済み培地に微生物資材を配合した良質堆肥。（N:1.1、P:2.2、K:0.9）
笠原良質堆肥	15 kg	660 円	腐植率の高い牛糞粒状（袋詰）（N:0.7、P:1.6、K:1.3）
善玉くん	15 kg	1,050 円	ｺｰﾝｺﾌﾞ使用済み培地に善玉菌（放線菌）を配合した有機質ボカシ肥料。（N:1.4、P:5.0、K:2.9）地力があるほ場での連作障害対策

* 10 当り施用量の目安：エアｰポイント、笠原良質堆肥は 30~50 袋、善玉くんは 20~30 袋。

* 来春、新改植予定の圃場はもちろん年 1 回は土壤状態を把握するために土壤分析をしましょう。

5. 秋の除草

雑草がある場合は、10 月下旬~11 月上旬にザクサ液剤を散布してください。

（この時期であれば、アスパラの茎にかかってもほとんど問題ありません。）

散布時期	除草剤名及び 10a 当たり使用量	除草剤使用基準		
		薬剤名	使用回数	使用時期
10 月下旬 ~ 11 月上旬	水 100~150ℓ に ザクサ液剤 300~500ml	ザクサ液剤	2 回以内	雑草生育期 収穫前日

6. 野鼠対策 ~殺鼠剤による一斉駆除は 11 月と雪解け直後が効果的~

☆市販の殺鼠剤を継続的に投与する。

10a 当り：ラテミンりん化亜鉛 1%60~120g（840 円/500g）

ヤソチオン(劇)200~300g（710 円/500g）

☆パチンコ（商品名：ラットキラー）を継続的に仕掛ける。

☆石灰窒素(防散) 10a 当り 60~100kg（3~5 袋）除草をかねて茎葉刈取後、根雪前の露のある早朝に散布する。

☆雑草が繁茂している圃場、荒廃地は野鼠の巣になります。草刈りをして圃場をきれいにしてください。

7. 欠株対策

☆茎葉刈取時や刈取後、樹勢の弱い株や茎立数の少ない株は来春収穫日数を考慮する必要がありますので目印を付けておき、欠株対策を今からすすめてください。